

望岳山荘

いって

一月七日付『市民タイムス』は、松本青年会議所(JC)が台湾の台南女子青年会議所と来る五月に姉妹関係を結び、「アジアの時代」の国際交流に努めることになったと報じていた。

私は、大変素晴らしいことだと思ひ、さすが松本の青年諸君は目のつけどころが違うと感心した。それはなぜだろうか。

まず第一に、台湾のJCとの提携関係という選択がよい。今年は、日中国交二十周年で日中双方が様々な慶祝行事を行う予定であるが、それは同時に日台断交の二十年でもあるから、台湾との将来の関係をこのように再構築していくべきかとい

う重要な問題に私たちは直面している。しかも、この二十間に台湾をめぐる情勢は大きく変わった。台湾は、いわゆるアジアNIE Sの中でも、もっとも安定的に著しい経済的・社会的発展を遂げているばかりか、最近では李登輝総統のリーダーシップのもとで政治改革と民主化も大いに進展し、世界の注目を集めている。今や外貨準備高は日本やアメリカを追い抜いて世界第一位、日本の貿易相手国としてはドイツと並んで第三位を競い合っており、もとより、日中貿易よりも日台貿易の方が大きく、人の交流も中国よりも台湾の方がずっと多い。しかも台湾の人びとは大変親日的である。

このように重要なパートナーであるにもかかわらず、政府間の国

交がないために、これまで日台交流にも様々な制約があった。日本政府・外務省もこの点によくやく気づきつつあるが、このような欠落を埋めることこそ、JCのような民間団体がなすべき国際外交の重要な課題だといえよう。

わが国では、長崎JCなどが台湾や香港との

松本JCの快挙

頼で私が秘書長になって訪中団(団長・山野幸吉氏)を組織し、実情調査を行ったこともある。

わが国では、長崎JCなどが台湾や香港との

らの文化人、金森久雄、飯田経夫、高坂正壽氏らの学者の参加を得て台湾との交流を重ねている。この正月には旧知の李登輝総統の御家族やごく親しい友人だけの総統誕生パーティーに招かれ、翌日は総統御夫妻と私も夫婦だけで一泊、日月潭に遊んだ。クリスチャンの総統御夫妻は学問と芸術を愛される人格者であり、たとえば西田哲学についての造詣という点でも、李總統に及ぶ学者は少ないであろう。

かつて「アジア・オープン・フォーラム」の点でも松本との提携関係にふさわしい。私自身、政府がなし得ない民間の知的交流の場として「アジア・オープン・フォーラム」を開催しており、亀井正夫、小林陽太郎、堤清二氏らの財界人や三浦朱門、深田祐介氏

宅に招いて下されるとあった、音楽愛好家でもある。今回も、お宅での夕食後に、台湾の新古典改良四重奏団を私のために呼んで下さり、台湾の蒐集家の手になるストラディヴァリのヴァイオリンを用意して下さったので、私も御相伴にあずかって、「トロイメライ」と「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」を弾かせていただいた。

総統御夫妻にして、このような雰囲気を持つ今日の新しい台湾だけに、私たちは、もっとも近くもっとも親切的な外国としての台湾との関係をいま一度再考すべき時期であり、それだけに松本JCの快挙は、私にとっても大変嬉しいことである。(中嶋 嶺雄・東京 外語大教授)